

報告提出日 2020年6月25日

第四回中間報告

報告期間 2020年1月15日～6月23日

基本情報

2018-19年度地区補助金奨学生 吉本文香

派遣ホストクラブ/カウンセラー: 広島南ロータリークラブ/ 山内恭輔 氏

受入ホストクラブ/カウンセラー: Rotary Club of Abbeydale/ David Quarterman 氏

教育機関: The University of Sheffield

専攻: Landscape Architecture

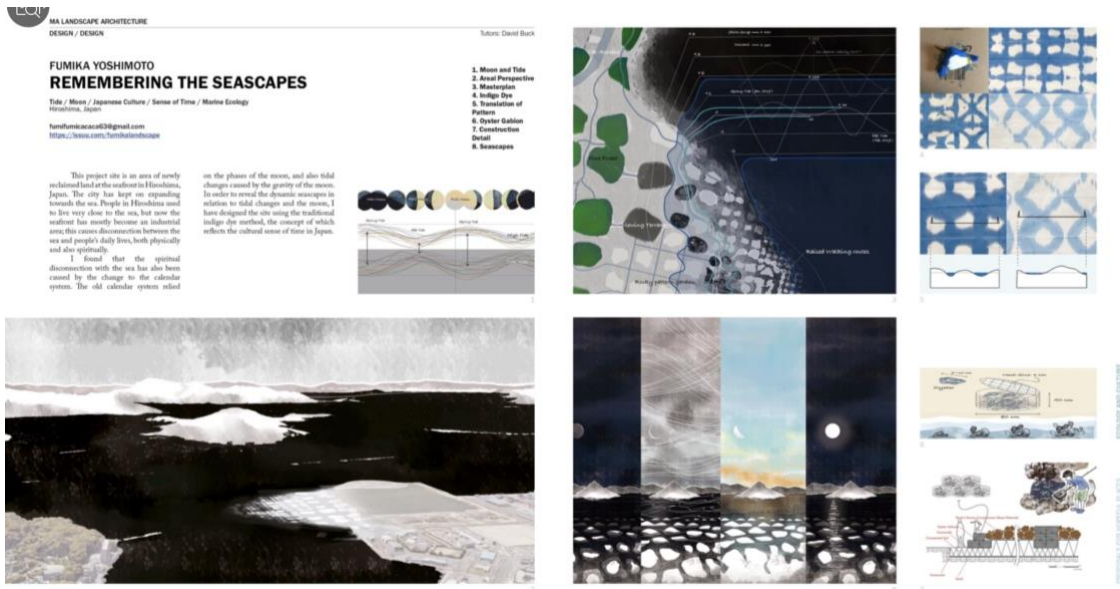
学業面の成果

今学期は、卒業制作に取り組み、6月2日に無事提出し、なんとランドスケープ学部から、The Experimental Landscape Award という賞をいただくことができました。こちらの賞は、デザインの過程のユニークさを評価していただいたと認識しています。



設計の対象地は、広島市宇品出島地区の新しい埋立地です。イギリスに行って様々な体験をする中で、やっぱり日本の文化って素晴らしいと思ったので、日本文化に焦点をおきたいと考え、その場所を選びました。私がデザインを通して考えたいと思った現代の課題は、コンクリートで固められた海岸線が、潮の満ち引きを隠してしまったことに付随して、月の満ち欠けや潮の満ち引きによって定義されてきた日本的な時間の概念が忘れられつつあることです。

デザインの過程ではどのように潮の満ち引きを可視化するか、どのように文化的な背景をデザインに反映するかを試行錯誤し、日本の伝統文様や、藍染の技法をモデルとしてデザインを発展させました。また、牡蠣の殻を活用して、潮の満ち引きや、将来的な海面上昇進も見据えて、海洋生物の住みかとなるような構造を考えました。



オンライン展示会のわたしのページです。

学期の途中から、新型コロナウイルスの影響で学部等が閉鎖され、作りたかった模型や、広い場所が必要になる作業は諦めなくてはなりませんでした。納得のいく作品ができたと思います。オンラインでたくさんアドバイスをくれた先生やクラスメイトにとっても感謝しています。

今年は卒制の展示会がオンラインなので、皆様にもご覧いただけます。英語ですがヴィジュアル作品ですし、個性的な作品ばかりで、楽しんでいただけたと思います！クラスメイトもみんな、本当に頑張ったと思います。みんなのことが誇らしいです。

わたしの作品は、48、49 ページです。48 ページ右上にあるリンクから、作品全体に飛べますので、ぜひご覧ください！

<https://themediainit.group.shef.ac.uk/landscape-architecture-2020/>

クリスマス休暇

クリスマス休暇の終わり頃、コロナでロックダウンする少し前に、友人と湖水地方 Keswick という町に行きました。3泊4日で、2階がゲストハウスになっているパブに泊まりました。オーナーのおじさんがとてもいい方で、朝食がとても美味しかったです！

Derwent Water という湖が近くにあって、トレッキングを楽しむ人たちに人気の小さな町です。また、鉛筆に用いられる黒鉛が初めて発見された、「鉛筆発祥の町」としても有名で、Pencil Museum という博物館があります。

Derwent water の周り一周するには6時間もかかりました。最後はヒョウに降られて、過酷でしたが、道中のパブでの一杯は最高でした。



Derwent Water



天気は悪いけどトレッキングは人気です。



いつも一緒に旅行に行く大親友の Jessie と。

新型コロナの Outbreak とロックダウン

3月13日に、同じ建物に入っている建築学部の先生に感染が確認され、その日の夕方には学部棟が閉鎖されました。イギリスの国全体でロックダウンが始まったのは、3月17日からでした。シェフィールドは、人口あたりの感染者数がロンドンと並ぶくらい多かったのですが、6月24日現在では、外出制限はなく、つい先週から学校も再開、飲食店以外のお店も再開し始めたところです。

初めは、日本に帰った方が良いのか、また卒業制作をどう進めていくか悩んだり、突然友達に会えなくなったことも相まって、精神的に少しパニック状態になりましたが、2週間ほどで慣れました。なるべく落ち込まないように、毎朝近所の植物園や公園に散歩に出かけると、春の植物の変化などいろいろな発見があって、意外と楽しんでます。

現在は、修士論文に取り掛かり始めたところで、元々講義はない予定だったので、週に一回オンラインで先生にアドバイスをもらっています。

屋外なら友人と会っても良いことになったので、友人とピクニックに行ったり、お庭でBBQをできるようにになりました。友人に会える喜びを噛み締めています。



3ヶ月近く、リスにしか会わない毎日。



ロックダウン後初めてクラスメイトとBBQ

ロックダウンのおかげで、オンラインのコミュニティがたくさんできました。特に、他の国でランドスケープを学ぶ日本人学生の方々との繋がりができました。卒業制作についてアドバイスしあったり、各国のランドスケープについてディスカッションしたりしています。これから将来に向けて助け合っていける仲間だと思います。

受け入れ地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーの方々との交流

ロータリーGB&I 1220 地区 地区大会

10月にスカーブラで行われた地区大会で、広島についてスピーチをしました。ホストである Abbeydale Rotary club の Alex さんが、私にインタビューする形式のプレゼンテーションでした。

今年は地区プレジデントの方がスコットランド出身ということもあり、スコットランドの文化が詰め込まれた、楽しい2日間でした。



初めてこんな大きなステージに立ちました。



グラスゴーからいらした Mcinally 夫妻

いけばなデモンストレーション

ロータリークラブの、Dorothy さんが所属しているガーデンクラブの例会に、いけばなの紹介をしに行きました。Dorothy さん手作りの大きい器に、お花をいけて、いけばなのコンセプトや、いけ方のコツを解説しました。たくさん質問もいただいて、楽しい時間を過ごしました。



地元の図書館で開催されました。30人ほど来ていただきました。

ロックダウン中

ロックダウンが始まってからも、ロータリークラブの方々に本当にお世話になっています。ロックダウンが始まってすぐ、いろんな方から、もし何か助けが必要だったら言うように、と連絡をいただいています。Alexさんは、毎週電話をくださって、ロックダウン明けからは、一緒に公園に散歩に行ったり、お庭に招いてくださってフィッシュアンドチップスをご馳走になったりしています。“図書館が閉まっていて、部屋にずっと籠っているから”と自宅の一室を、「私がいつ来ても良い部屋」にしてくださいました。本当にたくさん助けてもらっています。クラブの例会はzoomで開催されています。6月3日は、私がゲストスピーカーとして、ロックダウン中どんなふうにご経過しているか、日本は大丈夫か、また卒業制作についても、お話ししました。ちょうどその日は誕生日だったので、皆さんが画面越しにHappy Birthdayを歌ってくださいました！とても嬉しかったです。(zoomなのですぐズレていました！笑)



Alexさんと、Social Distanceは守ってます！



クラブのZoomミーティング

直面した課題、今後の課題

卒業を目前に、おかしな状況になってしまっていますが、思ったより適応しているし、この状況の良いところを最大限活用してうまくやっていると思います。表彰していただけて感激です。報われました。修士論文は、シェフィールド市内のAllotment(市民農園)について書く予定です。修士論文を書く際に、インタビュー、野外調査が今年は禁止されてしまったので、できることの幅がかなり狭いのですが、それでもやれるだけ頑張りたいと思います。9月に提出後、帰国する予定です。現在は就職活動はしていませんが、帰国してから、2年間の課題をポートフォリオにまとめて、いくつかの設計事務所に持ち込みで面接をしてもらったりして、ランドスケープアーキテクトとして働きたいと思っています。